

る批評中で最も精しく考へたもの、一つであると申しても過言ではないと存じます。先づ以上の様な複雑な到底私共のはかり知ることの出来ない深い種々様な経験や境遇やそれに伴ふ彼女の鋭敏なそして透徹したしかも女の特性たる緻密さを持つた思想や熱心な感情や強固な意志によつてなんだか薄暗い底の見えないそしてどこか光を持つた人だと存じますそのあらはれは既に幼い時の「我が書齋」といふのや「思ふ事共」の中の「心の底」などにかはいらしく書いて居りますかやうにして一種の寂しさに苦しんでゐられた粒木さんはなくなられる少し前に「私は前とかはつたでせうはれやかになつたでせう」といふ程なにかしら光を見とめたらしうございました亡くなられる時にもこれを言ひあらはすまでに練れて居らなかつたかも知れませんが華やかな世俗的の信念ではなく苦しい思索の中から誘み出した強い白光のやうな光を一すぢに見つめて居られたと思ふ事に私はせめての慰を得ると同時に嚴肅な崇高な感を禁し得ないのでございます。級の爲にはかういふ人達に似はない責任を強く感じて目だゝない様に種々の方面に盡して下さいました。文科三年の誇りであつたこの粒木さんは遂に逝きました。級としても學校としても世の女子の爲にも人知れず自分を苦しめて苦しめぬいて居た粒木さんは去られました。實に残念と申しませうか惜しいと申しませうか次にくるべき言葉も見出されせんしかし粒木さんはその周圍に實に明確な深刻な印象をあたへてゆかれましたことは私共をすてゝ去られてもいつまでも私共の心の中に生きて居られる事と信じます。

「朋友は眼前にあらざるも猶存在す貧しきもなほ富む弱きもなほ健全なり而して死せりと雖も猶生く余に向つてはシビオは猶生けるが如く而して彼は常に生けるなり如何となれば余が友人の性を愛し而してその性の光は決して消失せざればなり」とシセロは申しました私共もまたシビオと同様な粒木さんを偲びあはせてその冥福を祈るものでございます。

暮れてゆく障子のかけにひつそりとげにひつそりと痛みたまひしかも、いろのブルムラのはなにかほよせて見入りたまひき死ぬ十日まへ「クリストも釋迦も孔子も他人です」と死ぬ十日前のたまひしかな「なんといふひろく淋しい世界でせう」と死ぬ十日まへのたまひしかな「残つてゐるのは眞實だけです」とまよよせて死ぬ十日まへのたまひしかな「梁川の「病間録」をよみたい」と死ぬ十日まへのたまひしかな「どにもかくにもこの一と月の辛抱です」と死ぬ十日まへのたまひしかなふとして話とぎらせビク／＼とまよよせたまひき死ぬ十日まへ「うたがひの川とびこえてなせ來ないのです」と青きかほみていひ淀みけり立ちぎはに「思つたよりも御元氣なので」といへは大きくうなづきしかなゆつくりとひく／＼はつきりのたまひしみこゑなりかしいまもきこゆれ

苦しみのあとなくきえてあはれにも尊く見ゆる君のおもかげ
つゆの身とわれも思へどさりなからあまりもろきか悲しがりけり
母君の話となれば君はいつも涙ながしぬとたえがちにて
死の神は君にいよく近づきぬ死なぬ死なぬとうはことをいふ
死ぬ死ぬと言ふかたはらに母上よわれは死なぬと人を泣かす
セコンドの刻みゆく音も今更に空おそろしくきし宵かな
身にしむるあしたの風のつらさにもきみかよみちの思はるゝかな
消えゆけどわかにはらからのむねのうちにとはに生きます君のたふとし
さひしともしはしまちませ我等また君かみそはに友となる日を
遂にゆく道とは知れとたらちねのみ親のこして逝きませるきみ
ゆふされはなみたはてなし露のこと消えにし君を思ひいてつゝ
ひとこともあたには言はて意味ふかうしみくかたる君なりしかな
ものみなの悲しきわれにいや深くなけきを添へて君逝きませり

わりなしや睦月の三日はことしよりよにもかなしき日とはなりけり
御やまひおもりましても死ぬなどゝのたまはさりし君なりしかな
今日あすと立つ日に心なくさまでいとゝむつひし君の戀しさ
みかへれど共に越ゆへき人もなき死出のやまのさひしからまし
やすらかに死出の山路をこえてゆくきみしのはるゝ夕かなしも
逝きませる友とかなしみ外にたてはたゝさりけなき空の月かな